

認知症の人の主体的な生活を支える看護の専門性

—施設から地域へつなぐ共生社会への架け橋—

野澤恭代

医療法人恵信会 介護老人保健施設恵信塩山ケアセンター

介護老人保健施設においては、医療と生活の両面からその人らしい暮らしを支える看護の専門性が求められる。認知症看護認定看護師として、意思決定支援を軸に、認知症の人の意思を尊重し「その人らしく生きることを支える」看護を実践している。日常生活の中で、当事者の想いを表出する機会を積極的に造り、本人の言葉を丁寧に聴きケアに反映している。また、生きてきた背景を踏まえ、強みを活かし、主体性を持ち生活をしていくことを重要視した。更に、医療・福祉の専門職者と「私の想いシート」を活用しながら情報共有し、多角的な視点から、より個別的なQOLを高めるケアを検討していく調整役としての役割を担ってきた。

施設内でも社会生活の継続性が重要と考え、認知症の人と職員、利用者同士のコミュニケーションを促進する為の環境調整と、ファシリテート役となった結果、施設内におけるフレンドリー社会の実現に結びついた。認知症の人が在宅に戻った時にも、自らの意思や希望を発信できる社会の重要性を実感し、保健師や地域住民と共に認知症の普及啓発に向けた活動に取り組んだ。今後も施設から地域へと看護の専門性を発揮し、共生社会の実現に貢献していきたい。

【ご略歴】

1997年 公益財団法人 山梨厚生会 山梨厚生病院 勤務

2012年 医療法人恵信会 介護老人保健施設 恵信塩山ケアセンター 勤務

2022年 認知症看護認定看護師 資格取得

2023年 同施設 看護師長に就任(現在に至る)